

全国救急隊員シンポジウムが千葉市で開催

救急企画室

1 全国救急隊員シンポジウムとは

「第26回全国救急隊員シンポジウム」が、一般財団法人救急振興財団と千葉市消防局との共催により、11月21日（火）と22日（水）の2日間にわたって、千葉市（幕張メッセ）で開催されました。

この「全国救急隊員シンポジウム」は、我が国の救急業務の充実と発展に資することを目的に全国の救急隊員や消防職員、都道府県や消防学校の職員、医療従事者等、救急業務に関係する者が一堂に会し、実務的観点からの研究発表や意見交換を行っているもので、平成5年より毎年度1回、救急振興財団と開催地消防本部とで共同開催されており、今年で26回を迎えました。



消防庁長官祝辞（開会式）



市民公開講座「いのちを守る教育」

2 今回のシンポジウムの内容について

今回のシンポジウムは、平成7年度の第4回全国救急隊員シンポジウム以来、千葉市で開催されるのは2回目となりました。その千葉で、「救命のレガシーを次世代に！」～「海辺のまち千葉」から発展へと導く～というメインテーマを掲げて開催されました。

市民公開講座『いのちを守る教育』では、特定の講習を受けた意欲的な子ども達によって構成される応急手当ジュニアインストラクターが中心となって、子どもに応急手当を教えていました。学童期から命の大切さや人のために何かできることを知り、自己肯定感を持った子ども達の姿は、生き生きとしていました。

一般発表では、高齢化社会への対応、関係機関との連携、独自の救急活動、次世代を担う救急隊員教育の取組やICTを活用した取組など、24のテーマによる演題が発表され、時代に即した問題に対して、各地域の先進的な工夫がみられました。その他にも、9枠のパネルディスカッションや10枠のシンポジウムなど、それぞれの会場で、活発な議論が交わされました。

スキルトレーニング『集団災害・多数傷病者対応』では、MCLSのみでは、なかなか体験しにくい、指揮、情報管理、情報伝達を中心に、集積所、救護所などにおいて救急隊員にどのような活動が求められるかなどについて、多数の参加者によって、訓練と意見交換が行われました。また、今まで経験したことのない救急事故に対応すべく、救急隊員の向上心が垣間見えました。



一般発表の様子



スキルトレーニング「集団災害・多数傷病者対応」

3 地元関係者の熱心な取組

当日は、千葉県内はもとより、全国各地から約8,600名（2日間延総人数）が来場し、過去最多人数のシンポジウムとなりました。これもひとえに、主催者である一般財団法人救急振興財団や千葉市消防局をはじめ、地元医師会等関係各機関の皆様が一致協力してシンポジウム運営にあられた御尽力の賜物であるといえます。今後もこのシンポジウムが救急業務の更なる充実と発展に資するものとなることを期待しています。

なお、次回の「第27回全国救急隊員シンポジウム」は、平成31年1月24日(木)及び25日(金)の2日間、高松市において開催されます。

問合わせ先

消防庁救急企画室 市川
TEL: 03-5253-7529